



ロータリーを通じて 世界理解と平和を



WORLD UNDERSTANDING & PEACE THROUGH ROTARY

会長 新穂光一郎 幹事 藤川享胤 副会長・クラブ奉仕 内山喜一 職業奉仕 高岸三雄 社会奉仕 川村徳男 国際奉仕 斎藤利男 青少年奉仕 佐藤順治
出席報告：会員 74 名 出席 64 名 出席率 86.49 % 前回出席率 84.93 % 修正出席 69 名 確定出席率 94.52 %

ビジター卓話

◇新会員の教育と修了証書について

酒田東R.C 村上七五三君



酒田東R.Cは創立15年になり、現在会員57名のクラブですが、創立5～6年頃まで退会者が多く、非常に困難な時代がありました。

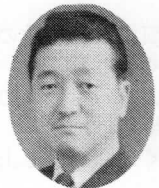
会員増強に力を注いで新会員を増強するのですが、退会者が多いのです。いろいろ原因を検討してみると入会前と入会後の教育に欠けて居ったのに気がつきました。これは先輩ロータリアンの責任ですので、ロータリー情報委員会資料による“新会員に対する入会后3ヶ月間のロータリー情報集会予定表”を参考にして実行致しました結果、会員も逐次順調に増えクラブ奉仕活動も活発になり今日に至って居ります。参考までに当クラブの新会員の教育方法を紹介致します。

ロータリー情報委員会がプログラムを作り、勉強会を3回～4回に分け1回の教育時間を3時間位とし先生はロータリー情報委員が交互に担当し、勉強好きな会員も参加して楽しく行なわれます。新会員のお宅を順番に廻って実施するのが一番効果的なようです。奥さん初め家族の皆様と知り合いロータリーを理解していただけます。

所定の教育を修了した会員のみ、後日会長、情報委員長連名で修了証書を交付致します。これが予想以上に好果的でした。

◇80年代は幹部の後姿で勝負する企業になろう

温海R.C 本間儀左衛門君



温海ロータリークラブの本間でございます。不透明・不確実性の時代と云われるだけあって、私共観光レジャー産業界にあって、昨年は大変きびしい年でございました。当ホテルの場合は、遅まきながら、昨年「法人成り」をして会社経営の第1年を経ましたが、苦労の中からも大変みのり多い、勉強させられた一年でもありました。

昨年12月に、鶴岡市農協様から講演を依頼されました。当ホテルで忘年会をなさるので、その前に1時間半位、労務・管理についてお話をせよと云うご要請でございました。鶴岡市農協様は県下でも1、2の大農協で「役員研修会」となると270名位の人数にもなりますので、私でなくとも、もっと立派な講師をと思ひまして、随分辞退したのですが、是非にと云うことで「職業奉仕」と思っ、お引き受けしました。

私は『労務管理を超えるもの』と題してお話したのですが、80年代のきびしい経営環境の中では、単に労務管理に精通して、一般的にこれを押し進めた処で、本当の従業員のモラルを結集し、従業員に、生きがい、働きがいを掴みとってもらうことはできないのではないかと考えております。労務管理の、その奥にあるもの、労務管理を超えるものが大切なのではないか？

丁度、ニーチェが「超人」“der *tj*bormensch”を求めて思索し続けたように、労務管理を超えるものこそ80年代の経営にもっとも必要且つ大切なのではないかと云う主旨のお話を致しました。

私が講演の中でもっとも時間をさいて強調したのは“幹部はつらいよ”と云う項で経営にとっての幹部の重要性、幹部としての仕事のむずかしさと、働きがいの尊さとも申しましょか、要するに企業の盛衰は、社長の人格、力量は勿論であるが幹部の良否によって決まると云うことです。(次頁に)

庄内に空港を建設しましょう

菅原辰吉君



私はこの頃、狸の置き物に興味をもっている。私の手許には大小併せて10箇許りあるが友人は11箇という。最後の11箇目はお前自身だと笑わせる。狸は「他を抜く」といい、他より抜き出て秀れているとか。他を追い抜いて勝つ意味があるといわれているが私はそんな事より、見ているとなんとなく愛くるしい「ボンヤリ」ものの姿が気持ちいい。狸八相の理屈等みると円転洒脱な禅味さえ感じられ、とかく失われがちな現代の「心の糧」として喜ばしい。



佐藤順治君

あなたの趣味は何ですか」と聞かれると「私は趣味のないのが趣味のようなものです」と答える人が案外多い。実は私もその一人なんです。そのかわり色々なものに興味は持っておりますが、手を出さないと目で見、耳で聴く程度でした。
「何か二人一緒に趣味を持ちたい」と何時も家内に言われておりますし、私も愈々老境に入りましたので、そろそろ家内の意見に同調しようかと考えている今日この頃です。

結局、幹部にとって一番大切なのは気魄であって「面魂しい」だと私は思います。又、後ろ姿こそが大切だと思います。子供達は父親の後ろ姿をみて育つと云われております。部下は上司（幹部）の後ろ姿をみて勇気づけられたり、暖かい愛情を感じとったり、口に出さない叱正を感じとったりするものです。突撃のときに部下は敵陣を見ないで隊長の後ろ姿をみて呐喊するのと同じです。

後ろ姿をみて部下が了解し納得するような幹部をつくるのが社長の仕事ではないでしょうか。男は「後ろ姿で勝負する」と云うことでしょう。

昨日、新潟鉄道管理局に陳情することがあり出張致しました。往復の列車の中で、川上哲治氏の著書『悪の管理学』と云う本を読んでおりましたら『後ろ姿で辛いよ』一指導者たる者の「やさしさ」と「きびしさ」と云う一節がございました。全く同感！

川上哲治氏と云えば元巨人軍の名監督、野球の神様です。

同じ事をおっしゃっているなと思うと誠に意を強くした次第です。

女は前姿

男こそは後ろ姿

後ろ姿の立派な男達を創ってゆくことこそ、80年代のきびしい経営環境に打ち克ってゆく経営者の道ではないでしょうか。ご静聴ありがとうございます。

●日本人の考え方、食べ方など、いわゆる文化一般に対する評価を表わす言葉に「バナナカルチャー」というのがあります。これに対する珍解答を2、3ご紹介しましょう。

まず、バナナのようになが〜い国の文化だから、日本人は黄色人種でバナナのように顔が黄色いから。それから、バナナばかり食べてるからという答もありました。とにかくいずれの答も違うのだけは事実。さて、あなたはどの「難問」にどう答える？

入会にあたり

風間真一君



昭和2年10月5日生
昭和29年東大法学部卒
財団法人専念社理事長
金屋興業株式会社取締役会長

勤務先 荘内銀行常務取締役
自宅 鶴岡市泉町6-20
TEL 0235-22-1050

入会申込者の趣味の欄を書くのに、もともとこれが私の趣味だと申し上げられるのがないのに、出来るだけたくさん書くようにとのことで困りました。たった一つ「山歩き」とだけ書きました。

登山というような大げさなものではありません。以前は年に3〜4回も月山に登ったこともありますが、近年は夏のシーズンに1回がやっとです。

植林地を見ながら山歩きも、近頃では春と秋の最も気候の良い頃にしか出かけなくなりました。

それから、夏の海水浴も好きでよく行ったものですが、今は真夏プールに顔を出す程度です。

自己紹介の一部です。今後宜敷くお願い申し上げます。

ビ ジ タ ー

- (温海R.C) 本間儀左衛門君、今野義介君
- (山形西R.C) 渡辺 浩君
- (立川R.C) 滝祥 源君
- (酒田東R.C) 村上七五三夫君

今週号はテープレコーダーの故障により不備な所があります。悪しからず。

(今週の担当者 早坂重雄)